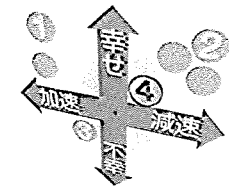


座標交換



た「ゆとり第一世代」。ていないうことも就職難
永浜は「学生の質が企に拍車を掛けている」
業の求める水準に達しと指摘する。

右肩上がりってなに？

神谷が就職活動を始 愚痴を言つ。そんな時
めた二〇〇八年秋、リも、すべてをプラス
ーマン・ショックが起 に解釈する前向き思 田の雑草を取った。集

就職すれば「安定」は
手に入るだろうが、
「働き過ぎて苦しそ
う。右肩上がりだけが
成長ではない。水面の
波紋のように、人間の
幅を広げたい」。

愛知県刈谷市の居酒屋 だった。

屋。神谷真希(こま)は二 物心が付くとバブル
年半、ここで学生アルバイト 景気は終わり、「失
バイトに打ち込んだ。 れた二十年」の中で育
教職への道をあきらら った。「右肩上がり経
め、夢や自信を見失い 済」を体感したことは
かけたころだった。

店主教育の厳しさが 執着はない。「身の丈
神谷の目を覚ました。 にあった消費で満足
「身の回りのすべての し、経済的豊かさから
出来事をプラスに解釈 脱却する兆候もみえる
すべし」「無理だと 世代」(第一生命経済
か、できないなどの愚 研究所主席エコノミ
痴を絶対言わない)な ト、永浜利広)との評
ど三十もの約束事。夢 が少し痛い。
中で働くうち「変わっ 現行の学習指導要領
たね」と言われる自分 導入時に高校に入学し

ゆとり第1世代



学生時代のアルバイト先を訪れ、店の決まり事「握手」で迎えられる神谷真希さん(左)。愛知県刈谷市で(川柳晶寛撮影)

きた。就職戦線は一気 考が生きて。「伸びる
に冷え込んだ。でも、 ためのチャンスを与え
自分にはバイトで培つ てもらっているんだ」
た「無理、できないと
言わず」逆境に耐える
力がある。〇九年六 集落。わずか七世帯十
月、愛知県内の信用金 六人の山あいの限界集
庫から念願の内定を得 落。コンビニはもちろ
た。

社会人となり、旧友 法学部四年、坂下可奈
は「仕事がつらい」と 子(こま)は一月にも、こ
こに単身移住し、「農
業をやる」。

「助け合つて自然の 内定を得ようと必死
中で命を育み、日々を 仕事も覚えなれない
営む。生きる、つっこ ない。友人とも離れ、
れだと知った」 「正直憂鬱になった」。

新潟県十日町市池谷 人たちに魅了された
いい大学からいい企 業へ。この価値を疑わ
なかつた。映像プロダ クションの内定も取つ
た。だが追い詰めて農 作業をするうち、座標
軸がぐるりと回った。

20代OLの「座標軸」

みんなの欲しがる気持 ちが競争を生み、切磋
磨でより質の高いものが 生みだされていくのです
ね。でも疲れたな。まず 首が疲れた。だつてずつ
と上向してるし。
(綿矢りさ『勝手にふ
るえてる』)

「右肩上がり経済」
を体感したことがない
年代層は全就業者の半
分に達した。彼らが求
める豊かさは、モノに
こだわらない、それへ
と変わりつつある。
敬称略、関連の面